

江戸時代図鑑をつくろう

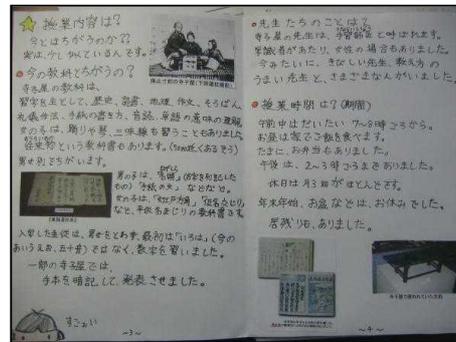
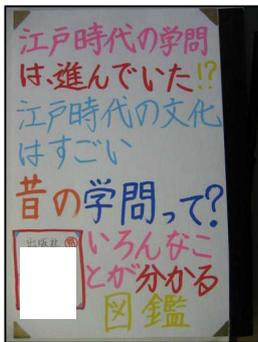
石田小学校の6年生は、社会で江戸時代について学習し、その発展として総合的な学習の時間を活用して、江戸時代図鑑を作った。図鑑作りのイメージを広げるために、博物館を見学した。

事前 秋の校外学習を利用して来館するため、事前に何ほどの程度あるのかインターネットやパンフレットから予備知識を得た。当日は午前中に県立博物館、午後から考古博物館と2つの博物館を利用するので、その利用マナーなどを学習した。

当日の流れ



子どもたちの図鑑例



事後

特定の展示物から発展したまとめは、事前学習で的を絞っていなかったもので、一つのテーマにこだわることは難しかった。代わりに体験したことは、印象的だったようだ。昔の遊びコーナーと服装の試着から関心が高まってインターネット検索や書籍調査をした児童もいた。衣食住に関心を持って学習するためには、再度専門的な指導援助の必要性を感じていたが効果的なことはできなかった。図鑑としてまとめたが、検索物の引き写しが多く、自分の感想を述べるのが精一杯な作品である。

一言

校外学習での訪問なので、2つの博物館を利用した。子どものほぼ三分の二が県立博物館に関連した時代を選択した。県立博物館では、江戸時代が全てであった。テーマは、「寺子屋」「和算(そろばん)」「江戸時代の服装」「甲府の町並み」「和菓子の歴史」といった所である。指導する側も展示物を把握していとは言えないので、子どもの要望以上の説明もできなかった。従って、県立博物館の提示物から発展した学習とはいえない図鑑となっている。子どもの関心は、自分と同じ世代が江戸時代にどのような学校生活を行い、どんな所に住み、どんな物を食べ、どんな服装をして過ごしていたかという身近なことが一番取り組み易いようだった。
(石田小学校 河西 浩)